

施策評価シート (平成22年度の振り返り、総括)

作成日 平成23年 04月 07日

施策 No.	11	施策名	生涯スポーツ・レクリエーションの振興
主管課名	スポーツ振興課	電話番号	0285-84-2811
関係課名	生涯学習課、福祉課		

施策の対象	市民								
対象指標名	単位	16年度実績	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	26年度見込
人口	人				66,712	83,392	82,997	82,584	85,500

施策の意図	市民一人一人が、自主的にスポーツ・レクリエーションを行うことにより、心身ともに健康で活力のある生活を形成する。								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	市民意向調査及び、スポーツ振興課の集計により把握する。 ・市民意向調査は平成23年5月の調査結果を使用する。								
成果指標名	単位	16年度実績	17年度実績	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	26年度基本計画目標値
何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合	%				50.2	49.1	55.4	54.8	55.0
市のスポーツ施設利用者延べ数	人				441,584	472,749	479,683	473,299	550,000
スポーツ教室数	教室				11	14	16	17	
参加人数	人				288	283	436	451	

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	スポーツ・レクリエーションは市民が自主的に行うことが基本である。行政はスポーツ・レクリエーションのきっかけづくりと施設などの場の提供が役割となる。
-------------------------	---

22年度の
評価結果

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

何らかのスポーツ・レクリエーションを行っている市民の割合は、昨年度の55.4%に対し、本年度は54.8%と0.6ポイントの減少となっている。

しかし、平成22年度の栃木県政白書では、成人のスポーツ実施率は34.2%であり、それに対し、市民意向調査結果で、真岡市は54.8%と県の水準に比べ高い水準にあり、健康志向の高さがうかがえる。

その要因として、本市のスポーツ・レクリエーション施設は分散型で配置されているが、地域で身近に利用できるため、市民のスポーツ・レクリエーションの実施率が高いといえる。種目ではウォーキングをしている人が24.3%と最も高い。

また、栃木県保健衛生事業団のアンケート調査の年代別スポーツ実施率で、真岡市は、40歳代の56.4%が「何もしていない」と回答している。その背景としては、仕事や子育てなどで時間が無いことなどが考えられる。

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

少年スポーツクラブやスポーツ愛好者で組織されているクラブ及び地域のクラブが利用する学校体育施設開放事業の利用者が多く、施策の成果に大きく貢献したといえる。その他、スポーツ教室、指導員活動、スポーツ施設の管理、貸し出し事業が比較的貢献度が高かった。

子育て世代は、スポーツ・レクリエーションへの取り組みが低調であることから、その解消を図るきっかけづくりとして、平成19年度から子供と一緒に参加できる親子スポーツ教室を実施しており、本年度は、ショートテニス、フットサル、少林寺拳法等5講座を実施した。

平成23年の全国スポーツ・レクリエーション祭では、真岡市はバウンドテニス大会を開催するので、平成22年12月11、12日の2日間リハーサル大会を実施した。また、バウンドテニスを普及するため、教室（15回）、交流大会（1回）を実施した。

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

市民意向調査結果では、今後行ってみたいスポーツ・レクリエーションとして、ウォーキングやジョギングの割合が高いため、それらの施設を含めた総合運動公園の整備を図る。

総合運動公園の整備については、基本計画に基づき、基本設計、実施設計を作成し、1期工事として、陸上競技場及びその周辺の約7.8haを整備していく。整備後は、陸上競技のほか、多くの市民が気軽にスポーツを楽しめる広場として、スポーツを通じた子ども達の持久力向上の場、サッカー場など幅広く利用できるようにする。

平成23年11月5日～8日の全国スポーツ・レクリエーション祭では、真岡市11月5日～7日にかけてバウンドテニス大会を開催する。また、この大会を成功させ、スポーツレクリエーションの振興の一助としたい。

22年度の
評価結果

補足事項